平成 28・29 年度 長崎県教育委員会・雲仙市教育委員会指定研究 「特別の教科 道徳」の実施に向けて

研究主題 豊かな関わりを通して自己を見つめ、 よりよく生きようとする児童の育成

~考え、深め合う道徳の時間の工夫と関わりを大切にした体験活動を通して~



平成29年11月10日雲仙市立川床小学校

T 研究の概要

1 研究の全体計画

関係法規 学習指導要領 県・市教育方針 時代や社会の要請 保護者地域の願い 教師の願い

学校教育目標

自ら学び、心豊かでたくましく生きる子どもの育成 めざす児童像

○進んで学ぶ子ども 〇助け合う子ども 〇やりぬく子ども

児童の実態 〈よさ〉

- ・素直・異学年交流が活発
- 動植物愛護 〈課題〉
- ・根気強さ ・自己表現
- 言葉遣い

道徳教育重点目標

- ①自分で考え判断し、節度ある行動をすることができる子ども ②誰に対しても思いやりの心をもち、助け合う子ども ③生命あるすべてのものを尊重し、大切にする子ども

- ④目標に向かって根気強く努力する子ども

(かんがえることを大切に)

(わたしと

くした。 ともだちを大切に) (こんきよくを大切に)

	各学年の重点目標						
	内容項目	低学年	中学年	高学年			
1	A 善悪の判断 自律、自由 と責任	よいことと悪いこととを区 別し、よいと思うことを進 んで行うこと。	正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。	自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。			
2	B 友情、信頼	友達と仲よくし、助け合うこと。	友達と互いに理解し、信頼し、 助け合うこと。	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら 人間関係を築いていくこと。			
3	D 生命の尊さ	生きることのすばらしさを 知り、生命を大切にするこ と。	生命の尊さを知り、生命ある ものを大切にすること。	生命が多くの生命のつながりの中に あるかけがえのないものであること を理解し、生命を尊重すること。			
4	A 希望と勇気 努力と強い 意志	自分のやるべき勉強や仕事 をしっかりと行うこと。	自分でやろうと決めた目標に 向かって強い意志をもち、粘 り強くやり抜くこと。	より高い目標を立て、希望と勇気をも ち、困難があってもくじけずに努力し て物事をやり抜くこと。			



豊かな関わりを通して自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成 ~考え、深め合う道徳の時間の工夫と関わりを大切にした体験活動を通して~

2 研究構想図

考え、判断し、他者とよりよく関わって生きる子ども

仮説(1)

道徳の時間において、 考えを引き出す発問や深 め合う活動の工夫をする ことで、多面的・多角的な 思考が促され、道徳的諸 価値の理解を基に自己を 見つめ、問題をよりよく 解決できる子どもが育っ であろう。

考え、深め合う道徳の授業づくり

学ぶ基盤となる学級づくり

- めあての設定
- 発問の工夫
- 考えを表出させる手立て
- 考えを交流させる手立て
- 学習規律の徹底
- ・認め合い、支え合う学級 集団
- 学びの環境の整備

仮説②

仮説② 教育活動全体におい て、関わりを大切にした 体験活動の充実を図る はで、互いの高め合い、 付き、よりよく生もが はにとする。 であるう。

小規模校のよさを生かした交流活動

家庭や地域との関わりを大切にした体験活動等

- 異学年交流 (複式学級、縦割り活動)
- 委員会活動
- 集団登下校
- 勤労生産学習(総合・生活)
- 伝統文化学習(総合・生活)
 - 運動会(学校行事)

3 研究の内容

研究仮説(1)

道徳の時間において、考えを引き出す発問や深め合う活動の工夫をすることで、多面的・ 多角的な思考が促され、道徳的諸価値の理解を基に自己を見つめ、問題をよりよく解決できる子どもが育つであろう。

考え、深め合う道徳の授業づくり

めあての設定: 問いをもつ ①(ア)

ねらいとする道徳的価値に関わるアンケートを 提示することで、意識と行動とのずれに気付かせ 課題意識をもたせる。

発問の工夫: 主体的に考える ① (イ) 児童が自分との関わりで考える発問や多様な考えが引き出されるような発問をすることでねらいとする価値についての考えを深めさせる。

考えを表出させる手立て:

考えを伝える ①(ウ)

自分の考えを相手に伝えるため、発達段階に応じた手立てを工夫することで、異なる考えにふれさせることができる。

考えを交流させる手立て:

学び合い、考えを深める ①(エ)

ペア・グループ・全体での話し合いや動作化・役割演技を取り入れ、考えを交流させる。複式学級では異学年が隣になるよう座席を配置し、発達段階による考えの違いにふれさせることで、自分の考えを広げたり深めたりさせることができる。

学ぶ基盤となる学級づくり

学習規律の徹底

話型や聴型を具体的に指導することで聞く力や表現力が身に付き、落ち着いて学習に取り組む態度を育てることができる。

認め合い、支え合う学級集団

よさを認め合う場を設けることで、信頼関係が深まり、考えを安心して交流させることのできる支持的風土が築かれる。

学びの環境の整備

校内の環境を見直し改善する ことで児童に安心感や所属感を もたせ、道徳的諸価値を意識し た生活をさせることができる。

研究仮説②

教育活動全体において、関わりを大切にした体験活動の充実を図ることで、互いのよさに気付き、互いに高め合い、共によりよく生きていこうとする子どもが育つであろう。

小規模校のよさを生かした交流活動

異学年交流

複式学級における活動や縦割り活動をすることで、お互いのよさを知り、相手を思いやることの大切さや力を合わせてやり遂げることの大切さを学ばせることができる。

委員会活動

3年生以上の児童は委員会活動に取り組んでいる。この活動を通して自分の役割に対する責任感や互いのよさを認め合う望ましい人間関係を育てることができる。

集団登下校

集団登下校を行うことで、高 学年としての責任感や相手を思 いやることの大切さを学ばせる ことができ、それぞれの規範意 識の高まりにつながっている。

家庭や地域との関わりを大切にした体験活動等

勤労生産学習(総合・生活) 米や野菜を栽培することを通 して、自分たちが自然と関わり 合って生活していることを感 じ、自然愛護や生命尊重の心を 育てることができる。

伝統文化学習(総合・生活) 地域の人と関わりながら地域 に伝わる凧づくりと凧揚げをす ることを通して、ふるさとに愛 着をもち、伝統を受け継ごうと する心を育てることができる。

運動会(学校行事)

家庭や地域と関わりをもつことで地域の人の温かさを直に感じ、自分が周りの人に支えられて生活していることや地域のよさに気付くことができる。

Ⅱ 研究の実際

1 考え、深め合う道徳の授業

1年生 主題名:困っている友達に B【 友情、信頼 】

資料名:「くりのみ」(出典:「みんなのどうとく」学研)

ねらい:うさぎときつねの行為を比較し、きつねが涙を流した理由を考えさせることで、友

達の気持ちを考え、仲よく助け合っていこうとする心情を育てる。

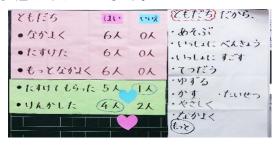
過程	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点	評価等
導入	1 アンケート結果から友達についての自分たちの認識と学習課題をもつ。	○「アンケート結果を見て、気付くことはありませんか。」・友達と仲よくしている。・けんかしていやな気持ちになったこともある。	アンケートを提示し、友達との関わり方に課題があることに気付かせる。	アンケ ート結 果
展開	ともだちとなかよく	くするために、たいせつなことをかんが	えよう。 めあての設定①(ア)	
	2 本時のめあて をとらえ、資料 を読む。	考えを表出させる手立て①(ウ)	・きつねとうさぎは友達で、お 腹がすいていることをおさえ てから資料を読む。	
	3 きつねとうさ ぎの心情を比較 する。	○「きつねとうさぎの心の色は同じでしょうか。」 ○「きつねは、どうしてどんぐりを隠して嘘をついたのでしょう。」 ○「うさぎは、やっと見つけた栗の実を、どうしてきつねに渡したのでしょう。」	ハートカードを貼りながら色を選んだ理由を発表することで、互いの考えの違いに気付かせ、意見が深まるようにする。きつねの行動を動作化させ、きつねの気持ちにより近づける。	
	4 きつねが涙を 流した理由を考 える。 発問のエミ	◎「なぜ、きつねは栗の実を握りしめ、 涙をこぼしたのでしょう。」夫①(イ)考えを交流させる手立て①(エ)	 ・涙を流した理由をワークシートに書かせる。時間を確保し書けない児童には個別に関わる。 ・考えを全体で交流させ、「きつねの心は変わったのか」と問い返すことで、うさぎの優しさにふれてきつねの心が動いたことに気付くように促す。 	
	5 きつねのその後の行動を考える。 発問の工法	○「きつねがもし今度、どんぐりを見 つけたら、どうすると思いますか。」 夫①(イ) 考えを交流させる手立て ①(エ))] ces.	評価
	6 自己を振り返る。		アンケートに立ち返り、自己を振り返る視点を与え、ワークシートに書かせる。	
終末	7 教師の説話を 聞き、本時をま とめる。	○「友達と仲よくするためには、どう すればよいでしょうか。」	「ありがとうの木」の内容を紹介することで、友達の良さに気付き、これからも助け合っていこうとする気持ちを高める。	

評価 友達のよさを感じ、仲よく助け合っていこうとする気持ちが高まったか。(ワークシート・観察)

めあての設定 (1)(ア)

本時でねらう道徳的価値に関するアン ケートを事前に取り、その結果から自分 たちの意識と行動のずれに気付かせ、授 業の導入で提示することで課題意識をも たせるようにする。

それをもとに本時のめあてを設定し、 児童が自分の生活と関連付けて学習に取 り組めるようにする。



考えを表出させる手立て ①(ウ)

〇ハートカード

特に低学年で、登場 人物の心をカードの色 で考えさせ、選んだ理 由も話すことで、考え をより明確にさせる。



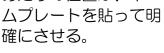
〇ネームプレート (例1)

発問に対する2つ程度 の選択肢を提示し、自分 がどう考えるか、ネーム プレートを活用して明確 にさせる。



(例2)

「する」「しない」など立場を示す言葉 を「心のものさし」の両端に提示し、自分 の考えは直線上のどの あたりの位置か、ネー





発問の工夫 ① (イ)

指導のねらいを明確にして、資料分析 を行い、多面的・多角的に考えさせる発 問や自己を見つめる発問を工夫する。

○導入での発問例

「~についてどう思うか。」

「みんなで話し合いたいことは何か。」

○展開での発問例

「~がそうしたのはなぜか。」

「~と~の考えにはどんな違いがある

「~さんの考えに対してどう思うか。」

○終末での発問例

「一番考えたことは何か。」

「友達の考えの中で印象に残ったのは 何か。」

考えを交流させる手立て ①(エ)

道徳的価値の自覚を深めるため、話し 合いの形態を工夫する。

〇ペアでの話し合い

自分の考えをもって、相手の考えを聞 くことで自分の考えとの違いを明確にす ることができる。なお、複式学級では、 意図的に異学年でのペアにするようにし ている。

○グループでの話し合い

友達の考えにふれる機会が多くなる。 自分と複数の友達の考えとを比較するこ とで、より深く自覚することができる。

○学級全体での話し合い

道徳的価値に対して自分の考えを表す 機会は少なくなるものの、多様な考えに 多くふれるとともに、自覚を深めること ができる。



2 学びの見取りと評価

(1) 評価につながる言語活動

発達段階に応じたワークシートにより自分の考えを整理させる。高学年では、学習の導入で本時のねらいに関わる問いを投げかけ、自分の考えをワークシートに書き留めさせておく。展開後半でも、同じ問いに対する考えを記入させ、始めと終わりで、自分の考えの高まりや深まりに気付かせることで、児童自身が自分の成長を実感するための手がかりにできるようにする。

(2) ワークシートの活用

道徳で使用したワークシートには、児童のよさや気付かせたいことなどのコメントを担任が書き入れた後、一人一人の道徳ファイルに綴じ、児童が必要なときに見直すことができるよう、教室の棚に保管している。さらに担任もワークシートを見直すことで、児童の学習状況を把握するとともに指導を振り返り、授業改善に活用できるようにする。





低学年ワークシート



高学年ワークシート

授業では、自作のワークシートを用いている。高学年においては、児童が主体的に工夫しながら記入することができるよう罫線のみのノート型ワークシートへと発展を図ってきている。

3 年間指導計画と別葉の作成と見直し

本校の児童の実態を踏まえ、教科や特別活動との関連を図りながら、重点目標に関わる内容 項目は、時期を考えて複数回指導していくようにするとともに、地域の人とふれ合う活動や行 事等との関連も図りながら、年間指導計画と別葉を作成している。

【年間指導計画】

月	主 題 名	資料名	内容項目	主な関連活動	
	心のかよい合い	「ありがとう」の言葉	B(8) 礼儀	1 学期始業式(A 節度、節制) 入学式() 拠 8 中) (B 扎備	
4	明るい心で	ひびが入った水そう	A(2) 正直、誠実	自然体験学習(0 自然素頭)	
	くじけず最後まで	はくのへんしん	A(5)幸益と異気、努力と強い業市	遊職訓練(0 生命の尊さ) 1年生を迎える会() 観 思り)	
	社会のルールを守る	雨のバスていりゅう所で	C(11) 規則の尊重	運動会 (B 次铸、信頼)	
5	友情の大切さ	とべないホタル	B(9) 友情、信頼	自転車数室(D 生命の称さ)	
	思いやる心を親切な行為に	何かお単価いてきることはありますか	B(8) 親切、思いやり		
	残しておこう	ひいちゃんが歌えてくれたこと D(19) 自然愛護		川床っチのむを見つめる教育週間	
6	日本のよさ	ふろしき	C(16)但從之文化の專業、医中華土を受する物質	(D 生命の称き) (B 親切、思いやり)	
6	生きることの幸せ	わたしの見つけた小さな幸せ	D(18) 生命の尊さ	フール清掃 (C 勤労、公共の精神)	
	よく考えて行動する	いっしょこなって、わらっちゃだけだ	A(3) 節度、節制		
7	正しくはんだん	手のひらの中の典気(3647)	A(1) 製器の利斯、自衛、自由と責任	1 学期終業式 (A 始度、始制)	
7	美しいものに感動する心	→ ぴきのセミに「ありがとう」	D(20) 感動、異敏の念		
	感謝する心	しょうぼうたんのおじきん	B(?) 5539H	平和集会 (0 生命の称き)	
9	他国の人や文化の交流を	中国から来た趙君	C(17)国際理解、国際親善	2学期始業式 (A 始度、始制) 遊職訓練 (D 生命の称さ)	
	家族の助け合い	お母さんのせいきゅう書	C(14)家族委、家庭生活の充実	作学旅行・宿泊体験学習 社会科見学 (A 加度、加制)	
	思いやりをもって	親切のつもり だったのに(株件)	B(8) 親切、思いやり	稲刈り(B 配謝) ((端(坎) 職 新社(教) 生活科見学 (A 遊底、強制) (0 曲然養護)	
	受け継がれる生命	バルバオの木	D(18) 生命の尊さ		
10	みんな違ってみんないい	うめのき村の四人兄弟	A(4) 個性の伸長		
	みんなの役に立つ喜び	「もっこ」をせおって	C(13) 勤労、公共の精神		
	友だちのよさを知る	ほくらだってオーケストラ	B(10) 相互理解、寛容	持久走大会(3 韓/数 协/多·参	
	真心の美しさ	花さき山	D(20) 感動、異敏の念	収機祭(8 感謝) 学習発表会	
11	友だちへの注意	大きな絵はがき	B(9) 友情、信頼	(1, 202) 報告後 類性多別類	
	自分の学校のよさ	秋空にひびくファンファーレ	C(15) 上月見り学校生活、集団生活の完実		
	誰に対しても分け隔でなく	わたしのクラス	C(12)公正、公平、社会正義	2 学期終業式 (A 始度、始初)	
12	夢をかなえるために	いつかにじをかける	A(5)卒益と男気、努力と強い業市	人権集会 (C 公正、公平、社会正辖)	
	健全な生活態度	目ざまし時計	A(3) 節度、節制	A D A COMMON CONTROL AND ADDRESS OF THE PARTY.	
	きまりを守る心	年老いた旅人	C(11) 規則の尊重	3 学期始素式 (A 前庚、前制)	
1	勇気ある行動	ドッジボール	A(1) 参客の利所、自体、音声と覚徒	遊戏訓練(0 生命の尊さ) なわとび集会	
	すてきなふるさとに	わたしの町のいいところ(5641)	C(16) 任祖上文化の幕章 居中男士を受する物意	(人 希望と男気、初力と致い意志)	
	家族みんなで	千春とわたし	C(14)家族愛、家庭生活の充実	原作り集会	
2	何よりも奪いもの	走れ江ノ電 光の中へ	D(18) 生命の奪さ	(1 間(放)難 野社(質)種) ふるさと体験学習	
	やりぬいて	文字を書く喜び	A(5) 希望と異気、努力と強い業市	((磁(及/離 耐転(数)を数) 5年生を送る会(8 級数)	
	自然や動産物とともに過ごす申り	また来年も待ってるよ	D(19) 自然愛護	卒業武 (B 感謝 B 礼儀)	
3	相手をおもいやり親切に	ひと Gros く平(わたしたちness	B(8) 親切、思いやり	修了武 (A 加度、加制) 離任武 (B 越謝、B 礼儀)	
	進んで活動する	水字メニューにちょうせん	C(13) 勤労、公共の精神		

【別葉】

	ibana ike	の自分で表えて申請。	ころからは行るちまれた。	とおかさるきどう	放料指導・4130		A 格特尔斯斯 有情	、自由と表子		UJ. 口信性もって行			
	徳教育の 点目標		リントのみた。第1章 2年 の7事制。大角でも 第2型のであるが、			中学年の 登点日標	3 名情、気報 2 中心で開み 4 市立と表示。別の	94075	方達とないドログシ 生のの単さたた。	情報。向けたら 生化さらをやき大し た目標に関わって	Tora II	Sarro Har - F	
		1000 Page 100 Co. 100		West -		S	Aggreen and the	502.83					9000
919	H44/8	4月 (表現などの事業	HOUZ TLAUSHE	SEVANDATE.	70 Tronspect	9.7	27	NAME OF THE PARTY AND ADDRESS OF THE PARTY AND	11.E	Tag	TENERA	1.ffents.	ST STATE OF STREET
	17	(日本)前 びない人のようを含 (A 下の、他の) 係をからした。 (A 無縁を含な、物でき 製・機会)	C NEISONE D SALAGO D THE THE SALAGOTTON STO CONSISTEN OF MICH. M. HOLD	込みないのは、すで、 対象によった。 日本を 数 のとはたいたの母を、 からに一を見する事に がたいのだった。となった。 からには「なって、おんっ からには「なって、おんっ からには「なって、おんっ からには「なって、おんっ からには「なって、おんっ からになって、おんっ からになって、おんっ からになって、おんっ からになって、またました。	O ASSUME B IT BESTELL 		HANDAUSS IN	W. P. A. P. Good St. W. C.	日本語画 (*) 動物 株 株の名。 人名な松によるで (E カス・株舗)	のは、からできる。公 下、公平 井田子高 にかか、上田神寺 公 外部・英と、東京が 級 増造・ 日きている。 の 日きている。	(2) 有権を発展。 (2) オージーン (3) 本書の工能、向後、 自由と表面) 72年(2) の利用は、10年(3) (3) 立場と、110日の発度。 国内は一定までも表示。	() 如何 () 如何 () (J.C. ATO 中してい Co. 自然を持っ したしてある。 To. Mo. Ti. exil 以下の、コードした。 A. O. Brit. は立った。 サ
	No.77		areo determine	の方は続き、CD 保全 に対しの概要 図の様 士を変する概要)	RESERVED AND RESER		nyhensi-mesa O Espito			- 5 かけ・世帯から 他 相とかしの事業、医 か は一き変する事故)	TOTALLES		
Ì	Ne	PRODUCTS SERVE				-	HANNET(3 KW)	i .	STORMS SAU (V WAT, ALT & ORM)			3	
ı	3/81		R. SOURSOUN. THE MEMORY						\$30062 Mos (C M6006)				RUTAGE BEST CATE DAME: STUDIES
*	314			チョウをうまてたらむ 生命のでき	CANADOSTA JOC CANADO		が飲み出たをかり 自 べた家						
	TA	春の日 印 自然を 文)	第5条の 医原生化性の 対象 医14年主要的する 発験の				367(0 59 0,530) \$)		STATE SEC. STATE ST	A21.79370を150 LXD (100、201)	日本の言葉に関した。 (C 世紀と文化の句 全 田の他上が置する を用)		EKSBITSALA (O KM. 1990)
ľ	FIE IT			TOTAL STATE OF THE					MONTH AMERICA	TOTALEROE I LA CRICARI BORE		た人士でイタサルの 何 何といわの母素、重か 毎上を見する形式)	
	ite	の行うと、「リルー(A A Mで表記、 30円 20 (A 由)の 本事、13年)	MORRORE SERVICE MICHAEL SERVICE EL	19世界日の12.12年2 (A 19世 1980 大(31日 1960年4)	(4090) Emiles			BHARK 42cm V. NOTE 20 HERD	ポートホール(3 kM 水道 C がおいの音)				サッカー 原 左側 横 3 神経の発査
	TIDOTA	THE STATE OF THE S	Site C AL DE	テリ/編集 (O MS 2二の編集)	O SQ. SEE	A で巻の一味・口は、 食力と参照	PRINCES CARREST CARRES	Interesta G ha Cub	科文表示者 か 5年、5部の 名 東の外系 死力の前、型 ま) 連門 (在 69年	ZYBARZ CA SE POB	1918年東京 (在下途 1945年 1928年 (中下の本地 (本下の本地 (本下が出来) (本下が出来) (本下が出来)	所がりませ の 計算に支出の報 か、選を料土を取りを が、選を料土を取りを が、選を料土を取りま の、日本の主意のの 者、選を料土を取りる 料(の)	
112	RECES	日本サルフェル (R 別の、駅 (サル)							東京学士を の、大・大・な代生で、 を下をあるかなか	AND 0 (3 SE. DO NO.		9415756 (8 58 5	
	9928	Table (Control of the Control of the	今時の利用で記載する。 企工上、資本を手を 企工との実施 1年起の場所的 1年起の場所的 2度では 最初、公元の事項 交通文学会第(2 王名 の報句	みんな方法化 古祖、作 (10)	会場を表し、東方が35 し個点:		(の 特金、公共の名誉 会会の日本会に基金を (の 当日) 原始なる。 発理は目の名乗)	C 360 SHADWARD C 360	作品の特別 中で発表の外の後 方式、情報 に二十、シークがたう が、よって存在さ	・特別となった。他の社 の 所の計画。 のでは、第25年 自動を表し、第76年 東京) の体みの第二人ので を第二人の を を を を を を を を を を を を を	256、電台 ままから21回単位で () 前1回電車 を12回転でも大きり() 5回。	以下で生活 TREEで の光像)	ED THE MARK LINES 14. IDEN
5	restant.	EMPLEMENT FOR A	(185 0일 전 (1914년) (27일 - 1922년)	Falls)			III. ETA eso teles 6/06/20 80° BAS 1 Bosto-tación 1	7日の発達、等50日 6150万年 日本第1 1954年、7月8日本2	7.7.7.58W		INTERNACIONAL COSCERNO BIRC Literatura de Si	7日の母皇 間のローチ 6日の野寺 山内郷土台 開刊後、開発者の	EF-SHIP REDUCED
tol	U.C.+OILF	Pik SI PI(-2) SIHI PIK 25	**10 123 123 123 27)-15 9(-8) 152 85	PICE-IO PICE-IOI PICE-IOI III PICE-IO DECT	P. 03 - (1)		PIG 1/ PIG-108 PIDS 141, 148 147	753-27, 86-42 733-27, 86-42 742-85	P 16 177 P2)-78 56-91 P 16 183	P16 100 P3C-25 P1C 15, 28 28	P110-153, 150-155 P5(-21, 10-60 P100-763	F05-141, 165-147 F06-00 - 00-101 F36-25	(182 HZ 443-(4 133) HS
to	68-86 16397 540	通信・中国人の意志 シャデ おってき で表現 事業などの を紹介され、またとし											
•	TA08046	e stra	8 89-10	0 上440年日	A 100-114		OF SERVICE	人間性の下流	C NO. 2 HOURS	0 2E-27,112E	A A型之典图 整次之 即 1922	の 別の・駅 ウル	R MAR

4 心を育てる道徳的環境づくり

児童が心豊かに生活するために大きな役割をもつ学校内の環境を見直し、児童が安心して 所属感をもって生活できるようにしている。

【友達のよさを認め合う学級づくり】

学級ごとに、自分や友達の頑張りやよい行動などを紹介し合っている。



【校門横掲示板】 掲示板の月ごと のテーマを内容項 目から決め、掲示 している。



(6月・生命の尊さ)

【心を育てる掲示(道徳コーナー)】

道徳的諸価値への意識の継続を図るために、板書や児童の感想などを掲示し、授業で学習したことを振り返ることができるようにしている。





5 小規模校のよさを生かした交流活動・関わりを大切にした体験活動等

異学年の友達や地域の人達とのふれあいを通して、互いのよさを認め合い思いやりの心を育てたり、協調性を養ったりするために、様々な体験活動を行っている。

【異学年交流】

複式学級においては、学習や諸活動を通して異 学年交流を図っている。また、共遊の時間や学校

行事では高学年が中心と なり縦割りで活動するこ とで集団の一員であるこ とを自覚し、思いやりの 心や協力する大切さに気 付くことができている。



【集団登下校】

班長を中心として、地区ごとに毎日実施している。集合時刻や場所等も自分たちで相談して決めており、それぞれが役割を自覚し、協力して行動

する力が付いてきている。異学年児童が交流することで、 つながりをより深めることができる意義ある取組である。



【勤労生産学習】

保護者や地域の方の協力を受けて、米やサッマイモを育てている。この学習を通して児童は、自然の素晴らしさや地域のよさに気付き、自分たちがたくさんの人に支えられていることを実感することができる。

ー連の学習のまとめとして、11月には保護者や地域の方を招待し、収穫祭を行っている。餅や焼き芋を作りもてなすことや日頃お世話になっている人に感謝の気持ちを伝え、収穫の喜びを分かち合うことが、地域を愛する心を育むことにつながっている。





Ⅲ 成果と課題

1 成果

- 発問や板書の工夫による児童の主体的な学びの向上
- 考えを交流させる場の設定による多面的 多角的な思考の広がり
- 互いに認め合う場の設定による支持的風土の醸成
- 自ら学ぶ意欲の高まりによる学力の向上

Q-Uアンケート

○クラスの中に仲のよい友達がいますか。

	H28年2月	H29年2月	H29年7月
肯定的回答	93. 3%	93. 4%	97. 1%
否定的回答	6. 6%	6. 6%	2. 8%

学校生活への意欲と学級への満足度を知るため、Q-Uを行っている。

いじめや不登校などの問題行動 の予防と対策にも活用でき、児童 が安心して学べる学級経営につな がっている。

全国学力•学習状況調查 【児童質問紙】

〇話し合う時、友達の考えを受け止めて 自分の考えをもつことができていますか。

	H28	H29
肯定的回答	83%	100%
否定的回答	17%	0%

○人が困っているときは進んで助けて いますか。

	H28	H29
肯定的回答	67%	100%
否定的回答	33%	0%

○学校のきまりを守っていますか。

	H28	H29	
肯定的回答	67%	100%	
否定的回答	33%	0%	

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

	H28	H29
肯定的回答	100%	100%
否定的回答	0%	0%

2 課題

- 道徳性の成長の様子の適切な見取りと評価
- 道徳的価値の理解を深めるための話し合い活動の充実
- 児童に育むべき資質や課題の家庭や地域との共有化

研究同人

平成 28 年度
校 長 本田 恭子 養護教諭 森﨑 美穂教 頭 中田 稔昭 事務職員 小鉢 貴子教 諭 大島 哲也 複式支援 宮崎 彩村木 美香 双-ll/ボ-ly- 宮本 孝子野口 智宏 用務員 松尾 修一草野 千泰

平成 29 年度 長 本田 恭子 中村 りか 校 講師 教 頭中田 稔昭 養護教諭 森﨑 美穂 教 諭 村木 美香 事務職員 小鉢 貴子 竹田 真二 複式支援 前田 彩花 野口 智宏 スクールサポーター 宮本 孝子 草野 千泰 用務員 栗原ひろみ